



東京多摩プロバスニュース



第 94 号

■事務局: 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 1-53-28 鈴木泰弘方 ■電話: 090-4846-7183

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2021. 5. 12.

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 201 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 3 月 3 日 (水) 予定するも中止

第 202 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 4 月 7 日 (水) 予定するも中止



ごあいさつ



理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

住いは美しく歳を取らせたい

増山敏夫副会長

私の住いは約 40 年前に宮大工が建ててくれた家である。当時は外材が住宅建築の主流だった。私達は日本の木で日本古来の伝統的な木組みで庶民の家造りをしたいと考え、民家の調査・研究の第一人者でもあったこの宮大工の指導を仰ぎ設計したのである。

「自身だけ揃まんでいてはダメだ！木を丸ごと使う家造りを考えろ！」…と。木に節があるのが当たり前、一般的には構造材と考えられた一等材を使用、天井を貼らず、梁・柱をそのまま表すデザインを徹底した。節だらけのインテリアは気安く表情豊かだった。工事中に四国の林業家が見に来て、「この木の使い方なら山の我々は元気が出る！」と喜んで帰った。キレイなと



ころだけ集めて高い値を付ける材木流通にもメスを入れ、山と直接手を結ぶことを目論んだ。設計中に話題になり、NHK クローズアップ現代の前身の番組にも取上げられた。私達はこの方法を「民家型構法」と命名、建築誌に発表したのである。細かく部屋を仕切らない民家の続き間の間取りの考え方を取入れた。……建具を外せば八

畳三つ分のワンルームになる。40 年間家具の移動を何回かやり、椅子の張替え 2 回、絨毯を漆板に替えただけである。

大きな家ではないからこそその知恵である。

昨秋、「long life architecture・建築家の住い」というシリーズ連載の一つとして建築雑誌の編集者の取材を受け、先日その掲載誌が届いた。16 ページも割いて良い記事になっていた。しかしたった 40 年で long life とは…。日本の木造住宅は相変わらずスクラップ&ビルドを繰り返す消耗品である。民家の様に住み継ぐ住いであってほしい。先日、建築家の友人がこの家を見に来て「良い歳の取り方をしているね」と言ってくれた。



マロニエ公園橋:メタセコイア街路樹通りをまたぐ橋で
新緑が極めて素晴らしい春の景観です

◆◆◆ 幹事・委員会報告 ◆◆◆

1. 幹事報告

飯作金彦幹事

1.1. 活動報告

第4波の蔓延が危惧される中、3月31日の理事会にて今後の活動全般について協議した結果、下記の通り決定し会員に緊急連絡をした。

- 1) 4月7日(水)の定例会は中止する。
- 2) 5月以降の定例会について、4月末の理事会で検討する。
- 3) プロバスニュースは予定通り5月初旬に発行する。
- 4) 理事会はコロナ対策に注意しつつ開催する。
- 5) 活動自粛中の誕生祝と記念品は郵送することとした。

1.2. 休・退会者

3月より休会:阿部華歌会員(事業専念のため半年間の休会申請あり)

2月末で退会:寺田桂子会員、永井峰子会員

1.3. 会員構成 令和3年4月1日現在敬称略)

会員:28名(内休会6名:阿部華歌・上田清・神谷真一・鈴木達夫・滝川益男・中村昭夫)

会友:6名(青木ひとみ・大澤亘・小池博・瀬尾日出男・永島仁・蓮池守一)

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

鈴木泰弘委員長

- 1) 誕生祝の品を高村会長の祝の言葉を添えて郵便にてお贈りしました。誠にありがとうございます。

*2020年12月から2021年4月までに誕生日を迎えられた方々(敬称略)

清家美紗子・渡辺ますみ・飯作金彦・伊藤健一・堀内陽二・小林伴子・小林務・山田正司・松山洋一・澤雄二(堀内陽二会員は1月22日に卒寿を迎えられました。おめでとうございます)

- 2) 埼玉浮き城プロバスクラブの創立10周年記念を祝し、高村会長名で祝辞をお送りした。

- 3) 5月以降の定例会・理事会の会場について

関戸公民館は、新型コロナウイルスのワクチン接種会場となって会議室が使えません。当面、関・一つむぎ館を予約します。

- 4) 今後の予定

5月:第18期の役員選出スタート

6月:議案書作成、配布

7月:第18期総会開催(7月7日(水)予定)

*高村会長より「シルクロード」を調査された際のしゃれた写真集をいただきました。ご希望の方は、総務の鈴木泰弘までお申し出ください。

2.2. 研修・親睦委員会

小林務委員長

昨今の東京都新型コロナ感染状況も厳しい状態にあり、研修親睦活動も暫くの間休止させていただきます。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

6月予定の市民大学講座「コロナ禍に立ち向かう」の日程の変更について公民館の担当者から、7階の展示室で客席を2分の1から3分の1に減席して「さくら寄席」を開

くので見学してはどうかとの提案があり、大澤会友と4人で視察した。協議した結果、7階のホールよりも観客数が50~60人少なくなるが、講師も聴講者も落ち着いて講座を開くことが出来るとの判断から、更に換気に配慮して展示室で開くことになりました。また、講師に予定していた岡田晴恵氏は、条件の調整がつかず変更いたしました。新しい講師は、元国立感染症研究所ウイルス研究センター長の田代真人氏です。田代氏は、今のコロナ対策の法律の原型となった「新型インフルエンザ特別措置法」を作った中心人物です。また、開催日も会場の都合で6月28日(日)に変更されました。

2.4. 広報委員会

伊藤健一委員長

- 1) プロバスニュース第94号を5月12日(水)発行・配布。

本ニュースは紙上編集会議にて作成しました。寄稿された各位に感謝申し上げます。

- 2) 会員各位からの寄稿を随時募集します。(テーマは自由)

- 3) ホームページの更新は、上記ニュース発行後に致します。感想など頂ければ幸いです。

2.5. 会員委員会

飯作金彦委員長

新型コロナ蔓延の中、委員会は今のところ開催を中止しております。

2019年1月~2021年4月の実績は、会員の紹介数7名(7名中退会1名、休会1名)となっています。



3月の理事会メンバー

(小島明会計と伊藤健一広報委員長は欠席)

◆◆◆ 新会員紹介 ◆◆◆

◇渡辺ますみ会員から自己紹介です。



この度、当クラブに入会し、地域社会に奉仕する機会を授かりました渡辺ますみです。聖蹟桜ヶ丘で飲食店を38年営んでいます。

今は、お家時間を、専らガーデニング、読書、犬との散歩、時々手話の修得に費やしています。夏にはオリンピックのシティキャストとしてボランティアをする予定です。

コロナ禍のもと、皆様に中々お会いできませんが、一緒に活動できる日を楽しみにしております。

どうぞ宜しくお願いします。

宇宙大航海時代を飛び続ける「はやぶさ2」

小池博会友

1. 大いなる勘違い(ハヤブサ≠戦闘機)

私はお台場にある日本科学未来館で永らく宇宙関係の解説員をしていました。その関係もあり阪東会員からご指名があったのだと思います。そこで気を引き締めて調べなおしたら大いなる勘違いをしていたことが分かり愕然としました。



「はやぶさと糸川」の組み合わせで思い起こすのは阪東会員や私のような戦中派は「はやぶさ」は加藤隼戦闘隊、「イトカワ」はその設計に携わった糸川博士(戦後、日本のロケットの父)です。ところが全くの勘違いであることが分かりました。「はやぶさ」は一瞬小惑星の表面にタッチダウンしてサンプルを採取し離脱する姿が、狩をする隼を思わせることから命名されたそうです。一方「イトカワ」はハヤブサが飛び立った時は命名されていませんでした。目的の小惑星 1998 SF 36 の発見者が命名権を譲ってくれたので日本のロケットの父糸川博士の名前を頂きイトカワとなり、ハヤブサの目的地が出発後イトカワになったのです。

2. 初代ハヤブサの功績

あらゆる失敗を重ね、さらに思いがけない不運に遭遇したが、それを日本人らしい粘り強さで克服して地球に帰還できた事です。「トラブルは必ず起こる、トラブルは人を育てる」川口プロジェクトリーダーの言葉です。

3. 宇宙大航海時代と「はやぶさ」

川口博士は、人類が15世紀から17世紀にかけてコロンブスやバスコ・ダ・ガマが開いた大航海時代と同じく、現代は宇宙の海を自由に航海する技術確立した宇宙大航海時代だと仰っています。その特筆すべき技術の第一はスイングバイです。これは地球の様な大きな星の傍を通過する時、うまく軌道設計するとその星の運動エネルギーを貰い、加速も減速もできるという技術です。従って大量の燃料を携行する必要はありません。次はイオンエンジンです。宇宙には空気も何もありませんから1円玉の7割くらいの推力のエンジンでも推進できるのです。しかもそのエネルギーは太陽電池です。また太陽光の圧力だけでも推進出来ます。更に凄いのは衛星自体が判断して目的を達成する、自律航法です。これはあまりにも遠い所を飛ぶため、通信してもハヤブサに届くのに往復40分もかかるので人間が地球から操縦できません。そこで編み出されたものです。

4. 「ハヤブサ2」の成果 (星になったふたり?)

「ハヤブサ2」の成果で特筆しなくてはならないのは「ハヤブサ初代」のトラブルの問題点が完全に払拭され、全行程をミスなしでこなし、途中発生したトラブル解決にも冷静に立ち向かえた事です。

小惑星探査の難しさのひとつは行ってみなければどんな惑星が分からないという事です。小さすぎて望遠鏡では

分からないのです。目的地「りゅうぐう」に着いてみるとサイコロのような立方体の惑星で、どこにタッチダウンしたら良いか迷うような形でした。そこで十分時間をかけて調査して調査点を決め、球型10センチ程度のターゲットマーカーを落とします。「はやぶさ」は此のターゲットマーカーのレーザー光の反射を頼りにタッチダウンします。余談ですがターゲットマーカーには154カ国88万人近くの名前が刻まれており、妻と私の名前も彫り込まれています。『星になった二人』です。「りゅうぐう」の時は申し込みを忘れ『「りゅうぐう」には行けなかった二人』でもあります。

5. 「はやぶさ2」の冒険「インパクター」

「りゅうぐう」は炭素が主体の小惑星で、水も含まれているかも知れないという期待があります。今度は「イトカワ」の時の様に、小惑星の表面の砂を拾ってくるだけでは成功とは言えません。地中(?)のサンプルを爆薬で露出させ持って帰る必要があります。そこで開発されたのが「インパクター」です。まずターゲットマーカーを落とし爆破地点を決めたらインパクターを分離します。そしてその爆破状況を撮影する機材を残し「ハヤブサ2」は爆破の影響を受けない「りゅうぐう」の陰に隠れます。インパクターはタイマーで爆破されます。爆破後ハヤブサが爆破地点に戻り、探査機下面に突き出されたサンプラーを接地させると同時に砲弾を打ち出し舞い上がったサンプルを採取するという難しさです。

このミッションを実施するに当たっては随分迷ったかもしれません。「インパクター」以外の仕事はすべて成功しています。「インパクター」は非常に危険な実験で失敗すると「ハヤブサ2」本体が傷つき、戻れなく危険もあります。しかしそれをあえてやったのは勇気ある行動だと思います。

6. 「ハヤブサ2」は飛び続けています。(次のミッションは地球防衛)

地球に成果物を無事運んだ「ハヤブサ2」はまだ飛び続けています。目標は極小惑星1998KY26です。11年かけて向かいます。このサイズの小惑星は地球に落下する可能性がある星です。ロシアなどで発見された火球がそれです。その場合落下点は甚大な損害を受けます。その対策の研究です。すごい性能ですね!!



宇宙大航海時代を飛び続ける「はやぶさ2」

1. 青春の思い出と一品

それは1964年東京オリンピックでの聖火トーチホルダーです。当時、私が高校2年の9月頃、故郷の新潟市内では東京オリンピックの聖火がリレーされていました。その一区域を正走者として走り抜けたのです。

白バイ2台の先導を受け、チームは高校生と中学生による副走者および伴走者計20名位の人数にて編成されておりました。走行距離は約1kmでした。



新潟県の一区域の正走者として走った

この年は、6月初めに新潟国体が終わり、その直後に新潟沖地震が発生したのです。堅牢な信濃川の堤防が決壊しました。更に県営アパートが根元からひっくり返ったり、完成間もない昭和大橋が崩壊したり、帝国石油(新潟市が本社)の石油タンクが爆発をし、大火災となったりの大災害となりました。私の自宅も半壊、床上浸水の被害を受けました。

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催が一年延期となった今回のオリ・パラは、日本全体が新型コロナウイルス感染の恐れからこのまま開催できるのか、心配の中ですが聖火リレーはこの3月25日に福島県のアサヒスタジアムからスタートしました。今この時、全国に聖火がリレーされています。

現在、私達の平和で安全であった日常生活が新型コロナウイルスにより、多くの命と仕事が奪われ、人との絆は分断され、また青少年には学ぶ場所が奪われています。昭和のオリンピック時より比較できないような困難な社会環境となっています。

遠い過去を思い出しながら、聖火リレーのバトンが暗い世間となっている今を、希望と勇気を人々に与えてくれること心から願っている昨今です。



1964年東京オリンピック聖火のトーチホルダー

片倉満会員



2. シルバーシート考

最初に「シルバーシート」とは、カタカナ語辞典によると、和製語であり公共交通機関内で、老人や身体障害者のために設けられた優先席とある。これを考えた人、まさか良いことに思い付いたと思っていなかったよネ。何故こんな情けないものを設けねばならないの、と悩んだ末のことだったのでしょうか。これとてにかく一安心?.....と思った人は老人達、優先席に座れる人達よりも一般の席に座っていた人達でした。これからは周りの人に気にしないで安心して座っておられること。

昔、中学生の頃電車で通学していて、それと見れば我先にと(ちょっとオーバーかな)急いで席を立て譲ったものだ。余談ながらその頃は戦争真最中の時、中学生でも正服に戦闘帽を被って足にはゲートルなるものを着けて登校していた時代。だいたい若いモンは立っておれと言った雰囲気だった。譲られる方も普通に自然にハイ有難うさんといったことでした。

当時は勿論シルバーシートなんて無かった。いや必要性無かった。いや必要無かったの、いわば全席優先席みたいなものだったから。困っている人がいたら当然手を差し伸べる、こんな当たり前のこと誰に言われ、或いは教えられたこと無く、戦後になりやれ自由だ、やれ平等だ、それ権利だ、人権だとか言われ、時代はすっかり様変わり。

優先席!!それはそれで結構なことなのでしょう。大事なことは他人に対する心配り気配り気遣い等々日頃の心掛けか……。せつかくの優先席つくって、これが後回しでは、仏作って魂入れず、で肝心なことは?なんて年寄りの愚痴か所詮90爺の一寸拘り過ぎの戯言(たわごと)でした。

堀内陽二会員



中学生時代の軍服姿

暫し 5月の富士山と芝桜を 鑑賞



「写真個展の履歴アルバム 10 冊」 永田宗義会員

62 歳の平成 14 年 7 月にリタイヤして 9 年の単身生活から自宅のある多摩市に戻り、第 2 の人生をスタート。いち早く軌道に乗せるべく地域を知り、変化を知り、また健康問題克服のためにもウォーキングを始め、毎日 2 ～3 時間のウォッチングから見つけた素晴らしい点景や、その彩の変化や、花々の美しさを記録に残そうと写真を撮り始めた。当時、デジタルカメラの大きな進歩のおかげで写真に関し学び、習得し、レベルアップを図っていた。

貝取にあるコーヒショップ「白樺」の新倉店長と親しくなり、写真個展を店内で開催し、多くの意見やアドバイスなどをいただくことで写真をやる励みになると思い、写真個展の開催を相談したら快諾を得られ、平成 18 年 5 月に写真 30 点で第 1 回の写真展を 4 週間開催した。



私の一品「写真個展の履歴アルバム」

今から思えば評価に値するほどのレベルでない素人写真にも色々貴重なアドバイスを多くのご来訪者からいただけた。それを励みに精進し、ほぼ毎年開催を続け、展示写真を厳選しながらレベルアップを更に図っていった。写真撮影は、四季折々、都内でのスポットや近県の山梨・長野・千葉・群馬の観光スポットへバスツアーや自家用車で訪れたりした。開催の案内は、写真で表示してあるように作成して、仕事仲間であった多くの OB や知人やプロバスの会員の皆さんにも送付し、ご来訪者と写真個展を通して懇談・親交できるようになったのは、豊かな繋がりとなり大きな収穫だった。

平成 29 年の 4 月下旬～5 月中旬の 10 回目の開催を最後に終了することにした。その後、幾人かの方々から写真展の開催要望と励ましの言葉をいただいた。この写真個展の展示写真を開催毎にアルバムとしてまとめたのが、この度の私の一品として紹介いたしました。



永田宗義 写真展

●ながむねよしプロフィール 1948 年長野県松本市生まれ。退職後、写真を始め 13 年ほど、ウォーキング中に風景や花を撮影している。多摩市鶴沼在住、東京多摩プロバスケットボール倶楽部会員。

2017 年 4 月 28 日(金)～5 月 14 日(日)

COFFEE SHOP 白樺

東京都多摩市貝取 1-50-15
TEL 042-376-4586
AM10:00～PM7:00<月曜定休>

●京王東山駅①より多摩センター行バス「貝取センター」下車徒歩 1 分
●京王多摩センター駅②より東山駅行バス「とちの池公園」下車徒歩 1 分

10 回の写真個展の案内ハガキサンプル

皐月彼是(さつきあれこれ)

阪東照子会員

草色青々山水清し、外出に良い時候だが自粛々々と、机に向かって過ごすのも又一興。5/3 憲法記念日・5/4 みどりの日・5/5 こどもの日等は旗日で、バスやポリスボックスに日の丸が掲げられている。今見ている手帳にも、3mm 角の日の丸が印刷されている。所でネーミングに合点のゆかぬ日を見付けた。5/10 コットンの日・5/16 旅の日・5/18 言葉の日等はまだしも、訝しい日があった。5/23 キスの日ラブレターの日(何でだろう何でだろう)・5/29 呉服の日は五二九で音読同じと納得。京都宮帯出版の今年の茶湯手帳に書かれている。5/5 元々端午の節句だったのを、昭和 23 年に 7 月 20 日にこどもの日と制定。勇壮な鯉織を建て武者人形(京都は白い面で関東の人形は肌色と聞く)を飾り道喜の粽柏餅を供え男子の成長を願う日に変わりはない。子供達を社会全体で見守り祝うのに良い方向付けとなった。

童謡の屋根より高い鯉織の歌でにがい思い出がある。初孫男子誕生と当時 50 歳の新米婆々は見栄を張ってデパートでなく急ぎ浅草へ、大枚はたいて桐箱入りを購入。ところが、その鯉織を喜ぶと思いきや「長すぎて二階の

お宅のベランダに尻尾が揺れるから飾れない」と。息子夫婦は八階建ての三階が住居だったのだ。

その初孫、今は三人の子の良きパパ、40 年も前のオハナシ!!

風吹けば来るやとなりの鯉のぼり 高浜虚子
尻尾だけ見えたのか、慈しみの温情とユーモア、俳人虚子が身近な人となり何だかうれしくなった。

湯上りの尻にべったりしょうぶかな 一茶
一茶らしいさり気無い可笑しさ。日本大歳時記夏引用。

五月は祭が多い。諏訪の御柱・葵祭・神田祭・三社祭等 15 以上思いつく。御神輿の端(ハナ)を押し返す役のいなせな知人?に出会い、御旅所の屋台に姉さんと呼ばれ一日手伝ったこともあった、若かりし昔。

5/8 世界赤十字平和デー、今は赤い羽根をつけるが、何年前かは白い羽根に小さな赤十字の印をつけ応募した方の胸につけたという。調べたい。

(三大祭) 手古舞いの神田祭りに知った顔

(極楽湯) 寄ってくる菖蒲押しやり肩かわす

(蛇足) 時鳥 特許許可局 耳昭和 浮草

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

コロナ禍感染防止で定例会が開催されず、誕生祝いの品が贈られましたのでここにお祝い申し上げます。

1. 12月誕生日を迎えられました！



左から渡辺ますみ会員・清家美紗子会員

渡辺さん;バス代が安くなるので何十年ぶりに遠くまで乗ってみたい。

清家さん;早くワクチンを摂取し来年はゼロコロナの楽しい誕生日となるよう願っています。

2. 1月誕生日を迎えられました！



左から堀内陽二会員、飯作金彦会員、伊藤健一会員

堀内さん;卒寿即ち人生卒業?お祝いに感謝し望みはピンコロ

飯作さん;80歳になり酒とゴルフで、いたって健康なり!

伊藤さん;72歳誕生日直後に降りかかった災い、頑張り乗り越えよう

◇◇◇ 東京多摩プロバスクラブソング ◇◇◇

作詞 池田 寛
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と
社会奉仕に力をそそぐ
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

霊峰富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の
教え導く糧となる
集う我等プロバスクラブ
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

3. 2月誕生日を迎えられました！



左から山田正司会員、小林務会員、松山洋一会員

山田さん;庭の草花手入れで、四季の移ろいを堪能しております

小林さん;傘寿が重なった誕生日です。有難うございます。

松山さん;お祝い有難うございます! 精進します!

4. 4月誕生日を迎えられました！



澤 雄二会員

澤さん;人生、あと十年。二つのテーマの論文の脱稿を目指す。

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

初夏を迎えんとする今、新型コロナ感染の勢いは収まるどころか、変異株コロナの出現によって一層の閉じこもり生活を強いられる様相です。新会員を迎えたものの、顔を合わせることも叶わず、私たちの活動もかつてない休止状態とならざるを得ません。

そんな中で、唯一皆さんを結びつける手段としてのこのニュースの役割が期待されるところです。

今回のこの 94 号では、それぞれの会員がこれまで経験したことから得られたことを中心に、これからやってみたいことを投稿して頂きました。

増山さんの建築家として、住む家に対する思いと、そのための手段など。小池会員の貴重な、夢のある経験談。片倉さんの青春時代の思い出。堀内さんの 90 年の人生の中から感じられた時代の様変わり。永田さんの写真を通しての人との交わり。そして阪東さんの日本の古き良き風習の教えです。

これから期待したいことは、新しく入会された方々からも、是非お感じになった事をお願いします。

(広報委員 北村克彦記)